

平成 26 年 1 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 26 年度第 1 回

#### 将（おく）らず、迎えず、応じて蔵せず

本年もよろしくどうぞお願い申し上げます。

今日は基本哲学の「知足」からお話致します。先程、岡本代表幹事が成熟社会という話をされました。良い視点だと思います。成熟社会が目指すものは、満足感であるとか一人一人が主人公となる社会という話でした。自分が何かやりたいものがあると思ったなら、それに対して向かっていく時は、自分自身が主人公になります。何もやりたいものが無いと、誰かがやっているものに付いていくから主人公ではありません。したがって、自分が今年一年間でどうしてもやりたいものがあると思う方は、ご自分の土俵を持っておられるから、じゅうぶん主人公になってゆけます。

季刊誌「知足」の新年号の対談で木内孝顧問が、「五感を大事にしたい」と言われました。それも詰めていくと、「足るを知る」をもっともっと追究したい、自分の心で腑に落ちるような「足るを知る」をどこかで味わいたいということだと思っています。

今、私の思っている「知足」とは、現状あるがまを素直に淡々と受け入れる、欲張らない。そしてここ一週間くらいの間は、諦観が少しありました。諦めざるを得ないような感覚もありました。しかし現時点で「足るを知る」と思っているのは、莊子の中にある「将らず、迎えず、応じて蔵せず」という言葉です。

論語の中で孔子は、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず」と自分の一生を振り返っています。八十代・九十代はどうしたら良いか、数年前の新聞のコラムに諸橋轍次先生が莊子の「将らず、迎えず、応じて蔵せず」と書いておられました。将らず…過ぎ去ったことをくよくよ悩まない。昨日より前の事は淡々と受け入れるしかないのだから、ああすれば良かったこうすれば良かったといちいち考えない。迎えず…これからどういうなるか分からないのだから、悪いことが起きたらどうしようと取り越し苦労をしない。応じて蔵せず…起こったことに不平不満を言わず、目の前のことに全力を尽くす。

或る会社の社長さんは税理士からこう言われたそうです。「あなたの会社は倒産していてもおかしくない事が何度もありました。なぜ今、あなたの会社が続けているのか考えてみると、世の中に役に立っていることがあるから、何者かがあなたの会社を生かしているのですね」と。言葉としてはサムシンググレート (something great) です。西行法師が伊勢神宮で詠んだ「なにごとのおはしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」と同じです。神社仏閣をお参りすると、身が引き締まって何となく背筋がピンと伸びてくる。そういう気持ちにさせてくれる場所があります。今朝方、道場で山崎さんの杖術の朝稽古に参加させて戴きました。背筋の伸ばし方も教えて戴きました。背筋を伸ばすと何となくサムシンググレートを感じます。何か、天と繋がる心持ちがします。

今ある状況をそのまま素直に受け止めて、その中から希望を見いだしていく。そういう感覚で「足るを知る」をお考えください。現状で今あることに感謝し、先々の希望を見出す。これは口で言うのは簡単ですが、なかなか難しいなと思っています。あまり欲張らないこと、今あることをあるがまま受け入れることだと、最近強く感じています。現状に満足する所からスタートなのだと思うと、世界が広がってきます。自分の知っていた世界から、どんどん違う世界に広がります。モンゴルに行って「知足」の心を教えていきたいという比田井副理事長の考え方も、この基本哲学から発していると感じます。皆さんもどうぞご自分の知足を育てて戴きたいと存じます。

## 論語の視点

では、論語の解説を致します。本日は顔淵篇 8~10 です。平原会員はさらっと素読をされました。文章の中身が分かっているとさらっと読めます。更に読み込んでくると、感情が移入されますから自然と抑揚がついてきます。読んでいる時にイメージが湧いて来れば、登場人物の気持ちになって読むことが出来ます。そういう段階を目指して戴きたいと思えます。

【八】<sup>きよくせいいわ</sup> 棘子成曰く、<sup>くんし しつ</sup> 君子は質のみ。<sup>なん ぶん もつ な</sup> 何ぞ文を以て為さんと。<sup>しこういわ お</sup> 子貢曰く、<sup>ふうし</sup> 惜しいかな、<sup>くんし と</sup> 夫子を説くや。<sup>し した およ</sup> 駟も舌に及ばず。<sup>ぶん なお しつ</sup> 文は猶 質のごときなり。<sup>しつ なお ぶん</sup> 質は猶 文のごときなり。<sup>こひょう</sup> 虎豹の<sup>かく</sup> 鞞は、<sup>なお けんよう</sup> 猶 犬羊の鞞のごとしと。

棘子成が「君子は中身が大事なので、飾りなど要らないのではないか」と言いました。

子貢がこれを聞いて言いました。「あのお方は惜しいことを言われる。いったん口から出た言葉は、四頭だての馬車でも追いつけないほど、あっという間に広がってしまうものだ。飾りがあるのもないのも同じだというのなら、虎や豹の毛皮が、犬や羊の毛皮と同じとい

う事になってしまうではないか。」

人間の見た目も、その人を表している。その素材も当然表面を見ることで中身が見えてくるものだ。内と外とが揃ってこそ君子なのだと、子貢が皮肉っています。

皆さんもバレンタインにチョコレートを貰ったことがあると思います。綺麗な包装紙に包まれていかにも美味しそうなチョコレートと大袋に入ったスーパーで売っているチョコレート、仮に中身が同じ味であっても、貰った方は綺麗な包装紙に包まれたチョコレートの方が美味しいと思うのではありませんか。綺麗な包み紙で中身も美味しいチョコレートが一番ですね。

現代に置きかえて考えてみましょう。最近の偽装問題、デパートや有名なレストランで看板に偽りがありました。ブランドや飾りに目を奪われてしまうのはいけません。ここで我々が考えるのは、もう少し自分の眼力を養いましょうと読めばよろしいでしょう。

【九】哀公 有若ゆうじやくに問といて曰いわく、年とし饑うえて用よう足たらず。之これを如何いかにせんと。有若 対たいえて曰いわく、盍なんぞ徹てつせざると。曰いわく、二にすら吾われ猶なおたらず。之これを如何いかんぞ、其それ徹てつせんやと。対たいえて曰いわく、百ひやく姓せい足たらば、君きみ孰たれともにか足たらざらん。百ひやく姓せい足たらずんば、君きみ孰たれともにか足たらんと。

哀公は魯の国の君子です。有若は孔子のお弟子さんで、この時 55 歳です。非常に頭も切れるし深みを増した旬な年代です。

哀公が有若に聞きました。「今年の飢饉で税金が納まらない。国費が足りないがどうしたらよいだろうか。」

有若が答えました。「税金を一割にすればよいのです。」（徹は通徹均平の意味で、十分の一の税制）

哀公が驚いて言いました。「今は二割の税金を課している。それでも足りないのに、半分に減らすとはなにごとか。」

有若が答えました。「自分だけと裕福になり国民が苦しむ、あなたはそういう事を望むのですか。国民が裕福になれば、結果として君子であるあなたも裕福になり、心が満足できるのです。」

税金を取り過ぎだと言っているわけです。何千年も前の話だと笑い話には出来ません。木内信胤先生も同じことを言っておられました。「税金が足りなければ税金を減らす。これが鉄則である。税金が足りないといって、ありとあらゆる所から税金まがいを取ろうとす

る。これは国を減ぼす」と。

今のアベノミクスは逆の動きをしています。今朝の日経新聞にアベノミクス第三の矢（成長戦略）で具体的に何をするか書いてありました。一、外国人労働者を受け入れる。二、法人税を引き下げ、国際競争力をあげる。・・・見出しだけは法人税引き下げと書いてありますが、中身を読むと最初から骨抜きですから、結果として引き下げにはならないと読みました。三、法人税の課税ベースを強化する。・・・これは何のことはない、＜税金を上げます。ただし大企業の収益は上がるような手を打ちましょう＞ということが読み取れます。一部の大企業に対しては法人税を安くするような動きをしますが、全体には大きな網をかぶせて課税強化するという事です。

このポイントは、「二割とっていても足りないのに、一割にするとはどういうことだ」という点です。これをずっと詰めていけば、我々の考えている基本哲学の「知足」に繋がります。

だいたい今の日本は経済の仕組みが根本的におかしいと思っています。なぜかという、働く者は損をする仕組みになっています。専業主婦は103万円の壁とやらで、働かなければ年金や健康保険が受けられる。103万円以上働くと税金がかかります。年金を貰っている人は、沢山働くとカットされます。生活保護受給者も働いた分は生活保護がカットされます。高額所得者はどうでしょう。働けば働くほど税金を持っていかれます。高額所得者の税率は今は50%ですが、今度55%に上がります。ここで言う「税金を一割にしろ」とは、もう似て非なる世界になっています。働いた半分は国に持っていかれるのに、もっとよこせというわけです。消費税や何やらと、働いたうちの六割は税金、四割が収入というような国になっています。そうなると思えば働いて収入を上げたいと思っている人は、日本から国外に出て働きたいと考えてしまいます。

日本は働けば働くほど損をする仕組みになっている。どうしてそういう国になっているのか？ 果たしてそれで良いのか？ そう思ったなら、先ずあるがままを受け入れて、そこから出発して考えていくと、働き方も変わってくると思います。ボランティアやNPO、財団法人などがどんどん広がっていったのは、損得ではなく精神的な豊かさを求めるからで、日本の国の中が大きく転換してきているわけです。けれども国の税体系自体はずっと遅れている。そういう状況下に日本はあります。その最後の締めくくりで、安倍さんが出てきてアベノミクスをやっているのです。大きい国の転換期の中で、最後の、日本の国を悪くするおかしな仕組みづくりの仕上げで安倍さんが出ているのですから、アベノミクスは成功する訳がないと思っています。

【十】子張 徳を崇くし 惑いを辨えんことを問う。子曰く、忠信を主とし、義に従るは、徳を崇くするなり。之を愛しては其の生きんことを欲し、之を悪みては其の死なんことを欲す。既に其の生きんことを欲し、又其の死なんことを欲するは、是れ惑なりと。

子張が孔子に、徳を積んで惑いをわきまえるにはどうすればよいか聞きました。

孔子が言いました。「忠信を基本にして、義を一所懸命考えてごらん。そうすればお前の仁徳は向上する。女性を愛している時には、その人に長生きをして欲しいと思うけれども、いったん憎んだら早く死んでしまえと思う。同じ女性に対して長生きして欲しいと思ったり、死んでしまえと思ったりするのは惑いである。そういう惑いを持ってはいけない。」

子張は陳の人で、孔子より 48 歳若いお弟子さんです。この時の問答は孔子が 60 代後半、子張は 20 歳くらいです。ひ孫のような弟子に対して、外側を飾っていないでもっと中身を磨きなさいと柔らかく諭しています。

「之を愛しては其の生きんことを欲し、之を悪みては其の死なんことを欲す」・・・可愛さ余って憎さ 100 倍という言葉があります。私には理解できませんが、最近はストーカー被害のニュースが実に多い。そこら辺を考えて読むと良いでしょう。

論語は、自分自身に置きかえる、現代にあわせて置きかえる、色々な解釈の仕方があります。

### 相互支援協定を結ぶ

昨年 1 月 1 日発行の季刊誌「知足」に、「平成二十五年から平成二十九年までの五年間は黎明であり、平成二十六年は殻を破って新しい勢力が芽を出すけれども、反対勢力があり、なかなか伸びてゆかない伸び悩みの年である」と書きました。これは変えるつもりはありません。

今年は物価がどんどん上がるでしょう。例えば、今日の新聞を眺めた中でも、緩やかな経済回復の論調がありますが、同じ新聞の中で、値上げの記事があります。生コンクリートが値上げ、製紙原料のパルプの値上げ、北米産の丸太が値上げ…値上げはこれからどんどん出て来ます。物価は上昇します。

一方収入は増えません。大企業は若干増えます。増えているものをどんどん書いていますが、大多数の中小零細は増えるわけがない。増えたような錯覚は起きるかもしれませんが、支出が嵩みますから結果としては減で、家計は苦しくなる一方だと思えます。知らず知らずの間に、例えば飲み物にしても中身が減らされると思えます。ですから実質的な値

上げです。消費増税も決定ですが、見えない所で税金はどんどん増えています。

外交面で考えると、一触即発が飛び交うと思っています。なぜならば中国が挑発行為を起こしています。防空識別圏を勝手に決めて、民間機であっても撃ち落とすという恫喝をしていますし、昨年の暮れに北米のほぼ全域が射程距離に入るミサイルを試射しました。かつて、ロシアが飛行ルートを外れて領空侵犯した韓国の民間機を撃墜しました。今、航空機を撃ち落とされたならば、やはり戦争になると思います。ですから一触即発で、中国が戦端を開く可能性が多いと思います。ちょっとした偶発的なもので、ロシア・北朝鮮・韓国の何処と戦端を開くか分からない状況下に今年は入ったと思っています。

また、アメリカが弱腰になりましたから、世界恐慌が起きる危険性も増大しています。世界恐慌と戦争、これが大きな危険因子です。同時に自然災害も考えられます。ですから今年は物騒な年だと思っています。去年は起きるかもしれないと申しましたが、今年は極端な言い方をすると「起きない方がおかしい」と思うような世の中だと思っています。日本で起きなくても、他の国々で似たような事が起きると考えます。

では、どうすればよいか。国と国との相互支援協定を結ぶ必要があると思います。日本の国の中では、自治体同士が相互支援協定を結ぶ必要がある。会社は会社同士、個人は個人同士の相互支援協定を結ぶ必要がある。今年の干支から考えると、どんどん実質収入が減るから、そのための対応をしておかなければいけません。

### 「三かく」と「かきくけこ」

本日ご紹介する本は『佐藤一斎 一日一言』、渡邊五郎三郎先生が監修された本です。この本はどこを読んで戴いても良いですね。今、ページをめくって「学問は人を変える」という部分がありました。皆さんもこうして中斎塾で学んでいます。学ぶということによって人間は向上してゆくのです。

塚越参与が回覧板で「ときめきを忘れた右脳大掃除…こんな気持ちで前進しようと思います」と書いて下さいました。それに対して私は、「三かく」と「か・き・く・け・こ」をご紹介しました。汗かく…どんどん働く。恥かく…知らないことに挑戦してどんどん恥をかく。物を書く…一所懸命書いていると、頭が活性化します。か…毎日感動する心を持ちましょう。き…興味を持つ。く…日々の暮らしに工夫をする。け…健康を維持する。こ…恋人を持つ。京都大学の名誉教授、大島清先生の言葉です。

では恒例の質問です。

- 今年になってから、嘘をつかなかった方

- 今年になってから、良いが続いているという方
- 今年になってから、有難うと言ひ・有難うと言われることが続いている方
- 今日、健康法を実践した方。

手が挙がらない方がおられますので、今年に入ってから比較的健康法を実践しているという方・・・是非、健康法を実践してください。

- 昨夜眠る時に、今日以降のことを過去形でイメージした方。

だんだん増えてきました。これが当たり前にイメージできると、素晴らしい人生が送れます。

以上で本日の講話は終了です。有難うございました。